

## 平成28年度 第1回 大衡村総合教育会議 議事録

日時：平成28年11月8日（火）

午前10時30分から

場所：大衡村役場 2階 会議室

○出席者：大衡村長 萩原達雄，教育長 庄子明宏，教育長職務代行者 高橋健正，  
教育委員 渡邊勇，教育委員 鎌田澄子，教育委員 齋藤さと子  
教育学習課長 文屋寛，課長補佐 早坂功，係長 三塚麻紀  
総務課長 早坂勝伸，係長 堀籠緋沙子（書記）

### 1. 開会（進行：総務課長 早坂勝伸）

開会時刻：午前10時30分

### 2. 挨拶（大衡村長 萩原達雄）

〔省略〕

### 3. 協議…大衡村総合教育会議設置要綱第4条第1項の規定により村長が議長となり進行する。

#### 1) 教育の大綱の具現化に向けて・・・資料1・2

・第五次大衡村総合計画との関連から

<萩原村長>事務局から説明をお願いします。

<文屋課長>資料1「教育振興に関する施策の大綱」については平成28年2月にまとめたものです。内容は省略します。  
資料2を読み上げ説明する。

<萩原村長>説明について質問はありませんか。

<庄子教育長>補足します。大衡村第五次総合計画に基づいた大綱になっているが、見直しをした際、「年度目標」は検討したが、一つひとつの項目は見直しされ

てないので、今回学校教育と社会教育に分けて見直しをしようと思う。  
大綱には、総合計画には入っていなかった「基本施策Ⅰ学校教育の充実⑥  
⑦」の項目があるので、それを含めて見直したい。

<萩原村長>社会教育にかかわることですが、村史の編纂を行わなければならない。現在の村史は50年代のものなので、約30年分は空白がある。先延ばしすると更に大変になる。いつかしなければならないものである。

「水道誌の編纂」を行った時のように、大衡村の歴史に精通している方々をリストアップし、してもらえばよいのかと思う。皆さんの頭に入れておいていただきたい。

<渡邊委員>50年代以降何もしていないのであれば、条例化して10年か20年毎に加除するように決めておけばよいと思う。

<総務課長>以前においては「村史編纂室・委員会」を立ち上げて対応していた。

<萩原村長>その他に、大綱の具現化について何かありますか。

<鎌田委員>大綱は特に問題は無く、これを実践していければ素晴らしいことだと思う。ただこれを柱として機能していった時の検証をどのようにしていくかが重要になってくる。例えばICT教育の研究で先生方の指導をどういう風に検証していったらよいか。それぞれ項目ごとにしていくのは大変かと思うが、進捗状況を追っていないと、5年間の中でどこまで達成できているかが把握できない。

もう一つは、特別支援の項目がこの中にはないが、あえて表現していないだけで、実際の所は必要な子供たちが増えているのが現状なので、そういうところにも目を向けているというような表現も入れていった方がよいのではないかな。

<庄子教育長>教育の大綱が作られた背景には、いじめ問題で自殺をした子供がいて、もう少し早い対応がなかったのか、そのために行政と教育委員会の視点を一つにして取り組んでいこうという思いです。

鎌田委員の言う通り、特別支援教育について、いじめ問題・不登校対策も必要になってくる。具現化に向けての中では触れていないが、この中に入っていると考えて作っている。大綱を具現化するのであれば、特別支援教育・いじめ・不登校に対する対策を言葉として具体的に入れていった方が

良いのかとも思う。

検証については、総合計画の項目に沿って一つひとつ検証はしている。

その中にいじめ等々の項目はない。もう少し踏み込んだ項目も考えていった方が良いのかと思う。

<萩原村長>大綱には書かれていないが、包括的な表現で特別支援教育等々も含まれているという話である。

今は自治体においても事務事業評価というものをする事になっており、効果等を検証するようにしている。見直しをするために検証は当然必要なことである。

その他に意見はないですか。

<全員>意見なし。

## 2) いじめ・不登校の対策について・・・資料3・4

(1) 平成28年度のいじめ・不登校対策について

(2) 心のケア・いじめ・不登校対策委員会について

(3) いじめ調査委員会の設置について

<萩原村長>説明をお願いします。

<庄子教育長>資料3・4を合わせて説明いたします。

この会議は行政と教育委員会の視点を一つにして教育を考えていくというものなので、その辺を念頭に置いて進めます。

いじめについては、大津市の中学生の自死が5年前にありました。それがきっかけで「いじめ防止対策推進法」が設置され、現在に至っている。それ以降自殺が減ったのかというとそうでもなく、近年では岩手県滝沢市の中学2年生の自殺があり、周りから「死ね・きもい」言われており、それを教職員の1割しかいじめと認識しておらず、そのほかの教諭は知らなかった。

身近なところで、仙台市の館中学校の自殺はかなりの生徒がいじめを知っていた。対策を講じた後も何件か事例が発生している。

生徒から「助けて」という声が発せられているにもかかわらず、担任が抱え込んでほかの職員が知らなかったケースもある。

最近では携帯電話が深く関係してきており、保護者や教職員他が把握しにくい。SNS上のいじめなどで、被害者の8割がスマホを携帯している。

女子高生の8割以上が7時間以上を携帯をいじっているという状態です。全体的に言いますと、教員が共通理解を図っていない・情報交換をしていない・対応の仕方がまちまちであるというところで、自殺に至ってしまうケースが多い。

大衡村については、そういうことがありましたので、小学校も中学校も、いじめの大小にかかわらず、毎月報告をさせている。今のところ「いじめ防止対策推進法」にかかわっている重篤な事項には至っていない。

重篤な事項というのは、自死または未遂に至ったり、いじめのために不登校になってしまう。このあたりが重篤な事項ととらえている。現在はありませんが、資料3にもあるように中学校については、毎月アンケートを行っており、小学校では「いじめ発見チェックポイント」を活用して毎月対応している。結果として7・8・9月が、いじめの発見が多くなり、2月頃落ち着く。いじめを受けた事実があればすぐに対応する。解消できるものもあれば、継続的に指導しているものもある。このような内容が大衡村の現状と対策です。

続いて不登校に関してです。昨年と人数的に変わりがない。これについては2つに分けられる。1つは家庭内での教育力が低下している。大衡村でも不登校の6割くらいが家庭の教育力が乏しく、その他4割は子どもが育つ中で強い気持ちを持ってないで育ったために全体になじめないと分析している。具体的な数字については不登校というものは年間30日以上欠席を目安にしているが、超えている子どもは、小学校では若干名いる。中学校では数名います。1名は病気で休んでいる。中学校が増えている。

中学校に行くとき楽しく学んでいるという雰囲気はわかるのですが、こういう子どもがいるのも現実である。対応としては、スクールソーシャルワーカーの登用をしている。それにより大分改善されていると思う。併せて「心のケア支援」も並行して行っている。

もう一つは、先生方が部活で勤務時間を相当オーバーして働いているので、子ども達と話をする時間がなかなか取れないのが問題。家庭の教育力に関していえば貧困の家庭が徐々に増えているというのが現状。

大津市の中学生自死から、いじめ対策について考えることは、まず教職員はいじめに対する認識が甘かった。その背景には、教職員研修が不十分だったと考えられる。教員は研究熱心だったが、事務処理が多すぎて、多忙さが子どもと向き合う時間を削っていた。教育委員会としても、教職員と一緒に対応を考えるということが大切であると思う。相談するという体制がうまくいかない。どこの自治体でも必要と思われるが、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなど、外部の専門家の活用や、臨床

心理士や弁護士会の協力を得ることも必要と思う。多忙化対策に向けて「いじめ対策担当教員」を導入することも検討していく必要がある。大津市ではその後、教職員2名を増やして対応にあたっている。

資料4として、埼玉県越谷市の田畑栄一校長先生の話は、一生懸命やっけて登校させようとして、うまくいかなかったが、結果は10年後に帰ってきた話や、福岡の吉富先生のいじめ対策については、1週間に1回会議をして未然防止の取り組みを組織的に推進してきた例です。

大衡村ではまだ設置していない「第三者委員会」という調査委員会を設置する必要があり、教職員ではなくて、弁護士や大学の先生・精神科医の方たちで構成されるものです。

<萩原村長>それは各自治体で設置するものか、広域的にするものか。

<庄子教育長>必要なものですが、設置していない自治体もある。いじめの問題がなくとも年に一回指導をしてもらわなければならない。

<萩原村長>それも含めて皆さんの意見はありませんか。

<斎藤委員>不登校の子は実際にけやき教室にも行けてないのが現状で、学校に行けないから終わりではなくて、生きていかなければならない子供たちが食べたり、話をしたりする場が大衡の中にあればいいのかと思う。

<萩原村長>子供の居場所という事ですね。食育と絡んでいえば、子ども食堂というような、誰でも行って食べられるようなところですね。

<斎藤委員>不登校の子はお母さんの体調も良くなかったりして、毎日ご飯を作れないようなことを聞きます。

<高橋職務代行者>子どもの問題には大抵親が大きく影響し、子どもだけでは直そうとしても直しきれない。親のせいにもしきれず、経済的な問題もある。

<庄子教育長>今の話は2つに分けられると思うのですが、斎藤委員さんが言った通りけやき教室には遠くて交通手段がなくて一人ではいけない現状も考えていかなければならない部分です。

もう一つは村長が言った通り、貧困家庭の子ども達にご飯を食べられないという状況で、地域で食材を集めてボランティアで活動をしていく等、現

状をもう少し考えていかなければならない。

<渡邊委員>児童館は午前中は空いている状態ですよね。そこを活用する考えはいかなものか。新たに施設を作ると大変なので、元の幼稚園を活用するとかどうですか。

<萩原村長>立派なものでなくても、みんなが気軽に行けるようなところである方がよい。大衡のような過疎地域は難しい。けやき教室は親が送っていくのか、送迎バスが出ているのか。

<庄子教育長>送迎バスはありません。大半は富谷市の児童で、一部大和町、大郷町はおらず、大衡は去年やっと一人入った。

<萩原村長>親が送迎しなければならないのであれば、やはり元幼稚園の一室を使うことも良いのではと思う。

<渡邊委員>定例会の話を見ると、大衡の不登校が大分増えてきているようだ。県内でも2番目という話だが。

<三塚係長>大衡は児童が少ないのにケースが多く、県の平均より多くなっている。宮城県自体も件数は多いです。ただ、それに対して何もしていないわけではなく、教育長が話した通り、ソーシャルワーカーや心のケア支援員などの方が採用され、学校にいけない子に対しては、訪問支援員が週に1回自宅に訪問して、家庭の中で学習を行っている。けやき教室には行けないが、母親が病気にかかっているため健康福祉課とも連絡を取りながら対応している。

<萩原村長>全く教育を受けられないわけではないのだね。

<三塚係長>ただ保護者の同意が必要なので、すぐに採用にはならない。

<渡邊委員>家庭訪問をするのもいいが、家でケアするより、けやき教室のようなところに呼び出して、支援の方とのやり取りをすれば、もつともつと効果が得られると思う。

<庄子教育長>それをするには親の会を結成しなければならない。

<渡邊委員>そうすると親が問題である。

<高橋職務代行者>親から変えていかなければならない。

<萩原村長>「いじめ調査委員会」を設置というのは、いつまで作るというのはあるのか。

<庄子教育長>ないですが、富谷市はあります。大和町はまだです。

<萩原村長>どういったメンバーで構成されているのか、郡内を参考に聞いてみて下さい。  
いじめと不登校については以上でよろしいですか。

<全員>意見なし。

### 3) 全国学力学習調査結果より

<萩原村長>説明をお願いします。

<庄子教育長>今年の宮城県学力・学習調査の5年生の結果は、質問調査では県平均と比較し、10ポイント以上上回った項目は、「先生は話を聞いてくれる・地域の行事への参加の有無」。逆に下回ったものは、「休日1時間以上学習する・平日読書をする・家庭学習の計画を立てる・予習しない・復習しない・授業の振り返りをしない」。

6年生の結果は、10ポイント以上が「学習に関するものが9項目・生活に関するものが6項目・将来に関する意識は2項目」と出ている。下回っているものは「学習塾に通っている・図書館に行く・学校の出来事を話す・文章を書くことが難しい・算数の授業が分からない」となっている。学力テストの状況は平成25年度から徐々に上がっており、平成28年度には県・全国の平均を上回っている。算数も同じように徐々に上がってきている。

総合して言うと「家庭学習の時間が少ない・家庭での指導がうまくいっていない」。

中学校については、学力テストで問題に対応できてなく県平均より10ポイントくらい下回っている。計算は出来るが証明は出来ない。生活については、スマホやゲームの時間が増え、家庭学習が伸びていない。

大衡村の教育委員会としてはチラシ等で家庭学習の大切さ、親の指導の大切さを知らせていきたいと思う。

<萩原村長>小学校6年生に関してはまずまず良いが、5年生は低いようだ。その年その年で子どもの様子も違う。今後もいろいろな対策をしていけば良い。

<庄子教育長>教員の指導も関係してくるが、大衡には一つの学校しかないので、教職員の異動も難しい。

<萩原村長>スポーツ少年団等との両立もなかなか大変なように思う。

いろいろな意見もあると思いますが、今日の会議をもち帰り、皆さんでよりよい教育の現場づくりに励んでいきたいと思いますので、今後ともご協力をお願いします。

#### 4. 閉会

閉会時刻：午後0時05分

本議事録は事務局書記が記載したものであるが、その内容に相違ないことを証明するためここに署名する。

平成28年11月8日

大衡村総合教育会議出席者

大衡村長

萩原 達雄

教育長

庄子 明宏

教育長職務代行者

古橋 健正

教育委員

渡邊 勇

教育委員

鎌田 登子

教育委員

齋藤 さと子